

H29第4回中央区まちづくり懇話会実施報告

日 時 平成30年2月14日(水)14:00～16:00

場 所 熊本市役所議会棟2階 議運・理事会室

参加者 懇話会委員14名

議 事

- (1)平成29年度中央区まちづくり事業の報告について
- (2)平成30年度中央区まちづくり事業について



意見交換会の様子



議事(1) 平成29年度熊本市中央区まちづくり事業の報告

中央区総務企画課長から

【資料1】「H29第2回中央区まちづくり懇話会実施報告」を基に報告。

⇒意見 平成29年度からまちづくりセンターが設置され、総務企画課とどのように事業の分担をしたのか？

回答(まちづくりセンター)

地域担当職員のフットワークを活かせる事業については、まちづくりセンターが担当するなど、業務の特性によって総務企画課と協議しながら行った。

平成29年度実施事業



中央区スポーツ交流事業



地域防災支援事業



お宝探検事業

議事(2) 平成30年度中央区まちづくり事業について

中央区総務企画課長から【資料3】「平成30年度中央区まちづくり事業」を基に事業全体を説明。

平成30年度 中央区まちづくり推進事業: 17事業
予算額: 1,857万円(うち復興基金事業 292万円)

中央区まちづくりビジョン

“きらり”とひかる品格ただよまちをつくる
“わくわく”があふれる活力と賑わいのまちをつくる

“ほっと”できる安全で安心なまちをつくる
“いきいき”と暮らせる健やかなまちをつくる

中央区のまちづくり
基本理念

自主自立のまちを目指します

○自主自立のまちとは？

住民が、ゆるやかにつながりあい、楽しみながら、生きがいを持って、めざす
くらしのあり方をみずから考え、そのために、なにが必要か、なにをするべき
か、検討し、選択し、行動できるまち



つながる



たのしむ



いきがい



かんがえる



議事(2) 平成30年度中央区まちづくり事業について

「SNSを活用した情報発信事業」

中央区まちづくりセンター所長から「LINEを活用した情報発信事業」【資料5】を基に説明。

《委員意見》

- ・自分はLINE登録をしていない。携帯を持たない人たちへの情報提供についても考えてほしい。特にお年寄りなど、携帯電話を持ってもLINE登録が面倒だったり、わからない場合があるので、使っていない人もアプローチができるようお願いしたい。
- ・LINE登録をしているが、主に使うのがFacebook。登録が多すぎると弊害があるのではと心配になる。登録するきっかけにしても、ネットのどこから入るのかイメージがつかないので登録について聞きたい。また、今ネット上にある情報以外にもLINE同士のやりとりなどもできるのか？

《まちづくりセンター所長》

より多くの属性を登録することでよりきめ細かい情報提供ができるが、あまり多いと登録が大変。現段階では、年齢、性別、校区、関心のある情報などでの登録を考えている。登録に結びつけるやり方としては、学校等に出掛けて説明を行うほか、市のホームページにもLINEの広告を出す。双方向のやり取りは難しいが、タイムリーな情報提供を行いたい。アンケート等も入れて、利用者の声を聞いていく。

《委員長まとめ》

この事業は、若者たちが地域情報に対してアクセスしにくいとの声ではじまった。今回のLINEの事業は、既存の情報媒体の置き換えではなく、新しい情報ツールのひとつとして始めるもの。これまで、情報が届いていなかった方への付加的なアクセスツールである。

議事(2) 平成30年度中央区まちづくり事業について

「お互いさまのまちづくり研修会」

中央区福祉課長から「中央区地域包括ケアシステム推進方針(案)」【資料6】の説明。

《委員意見》

留学生や、外国人に簡単な日本語を教えてくれる高齢者がいればいい。独居高齢者の話し相手として、日本語、昔の話を聞きたい外国人はたくさんいるので、そのマッチングができればいいと思う。

《委員長まとめ》

地域包括ケアシステムとは、高齢者の介護に関することが中心だが、一昨年「地域共生社会」という丸ごとみんなをお互い見守るといった言葉が厚生労働省から出ている。

埼玉を中心に、高齢者が子ども、子どもが障がい者を支えるいろいろな試みも出ている。

中央区からも、地域の方々と子どもたちのつながり作りということで「中央区お宝探検事業」の報告があったが、小・中学生、高校生・大学生が地域に関わってくることが、地域共生社会の一步だと思う。そう思うと、地域包括ケアシステムの推進は、単に介護の必要な高齢者のみのかわりではなく、校区の中で支えあう、お互い様のまちづくりとなってきたのかと思う。

提案のあった外国人のニーズでは、高齢者とのマッチングについて、大学連携も必要。日本語学級を長年やっているところは黒髪しかないが、強みにしてどう活かしていくかも考えている。

中央区は一人暮らしの高齢者が多く、こちらからの声かけと、意図的に生きがいを作る仕組みづくりが大切。生涯現役社会が生きがいにも繋がる。中央区には、外国籍の高齢者の方々もいる。中央区はそのようなことも考えていく必要がある。

議事(2) 平成30年度中央区まちづくり事業について

「中央区から糖尿病を減らそう事業」

中央区保健子ども課長から【資料6】を基に説明。



《委員意見》

- ・料金はかかるのか？
- ・随時血糖検査は、糖尿病の予防啓発のためのものか？
- ・調子が悪くて病院に行き糖尿病と診断された経験がある。自覚症状がないとなかなか病院に行かないため、自覚症状が出ていない時に検査のきっかけをつくることが重要。

《保健子ども課長》

無料で行う予定。糖尿病と診断されていない方を対象とする。ご意見のとおり、早期に病院に行くことが大切。PRをしていきたい。

これまでも、随時血糖検査を行っており、今年は約1,200名の方が検査を行い、その中で4分の1の方が糖尿病の指導が必要とわかった。要指導者への、生活習慣改善の意識付けを行い、約6割の方の数値が改善した。30年度はまちづくり事業として、他職種と連携をして、更に、要指導者への予防啓発をしていきたい。

《委員長まとめ》

熊本地震の際には、病気で厳しい状態にありながら、避難をされている方もいた。熊本県は、全国的に見ても人工透析者数の割合が高い地域。腎臓病などの生活習慣病が特に多い疾病で、ひとつの糸口が糖尿病。ここに焦点をあてて取組もうとしているもので、事業に対して支援をお願いしたい。

議事(2) 平成30年度中央区まちづくり事業について

「事業全体について」

《委員意見》

- ・色々な研修やセミナーに参加し、その時はいい事を聞いたと勉強するが、その後、どうつなげていくか考える。主催者側もやって満足して終わっていることもある。学んだことを人に伝えること、広げたりつなげたりすることが大切。
- ・情報弱者に対して、イオンの空き店舗活用は面白い。拠点となる場所があり、そこへ行くとだれかと話せ繋がっていく。講座などにも広がるのではないか。面倒くさい人にとっても、買い物のついでに利用できるのがよい。
- ・アメリカ合衆国では、高齢者が休憩しながら歩くためにベンチを増やしたりする。ベンチを置くことが可能か？

《委員長まとめ》

- ・育成した人材をどのように活用するのか、30年度の事業の中で具体的な議論を行う必要がある。「熊本城一口城主」のネーミングはうまい。今回の研修等のネーミングも「中央区民サポーター」等、研修だけでなく活用できるよう工夫をして、ユーモアあふれる研修にしてほしい。
- ・イオンは交通の便もよく、希望荘別館などもでき利用しやすい。利用が増えるとよい。子飼商店街などにももっとつなげていきたい。
- ・県では、まちの縁側事業などがあり、ゆとりのあるスペースを作ることで、人とのつながりをつくっている。人がとどまることで知り合いになるということはある。

その他(委員振り返り)

名前(分野)

山下委員(障がい者福祉)

自分の住む場所でどう地域と繋がっていくか、そのきっかけとしてまちづくり事業が展開されていくことが面白いと思った。

地域の中で障がいがあるということも含めて皆さんが繋がっていったらと考えている。自分達にできるのは、町の起点になるようなみんなが集まる場所とどう繋がっていくのか、繋がるきっかけを作りたい。

杉光副会長(報道)

震災後の1年間ということで、自助共助・その部分でのまちづくりというのが身になった。また、コミュニティが重要であると感じた。

高齢化社会になってきているということも特に感じる。外とのコミュニケーションを図られていない方へのケアをしていかなければいけない。

田原委員(商店街振興)

上通りで椅子フェスを行い、色々な椅子に自由に座ってもらうという取り組みを行った。常設については、道幅の規制により出来なかったという事情があることをご理解いただきたい。

ラインに関しては非常にいい取り組み。メインでやわらかい名前をつけ、かっこいい・かわいいスタンプを作ると友達が増えるのではないかな。

その他(委員振り返り)

橋本委員(公募)

地域の問題点などが見えるのかと参加した。

次年度のまちづくり事業は、どうにかしていきたいという思いが表れている内容。

濱委員(地域福祉)

まちづくりをする原点は地域の力ではないかと感じた。子育て・高齢者・医療・介護色々な問題があるが地域は地域でやっていかなければならないし、地域が活性化すれば校区が活性化し、熊本市が活性化するのではないかと思う。

マスデン委員(国際)

何か力になることがあれば力になりたい。

松田委員(地域活動)

各校区で1年に1回は校区の住人全員がかかわるような催しを行うと繋がると思う。まちづくり事業は、校区全体で関わってするような大きな事業に対して、支援してもらおうと効果がある。

渡辺委員(地域活動)

出水校区防災連絡会を立ち上げた。地震の際の私たちの反省点は、行政に頼りすぎていたのではないかということ。マンション住民の方とも、一緒に頑張りましょうという雰囲気になっている。自分たちでじっくり考えて、防災訓練をやってみたい。

その他(委員振り返り)

多々野委員(高齢者福祉)

地域包括ケアシステムについて、言葉は難しいが一言で言えばまちづくりなのかなと思っている。老いも若きも病気の人もそうでない人も、みんなでやっていくために、橋渡しや繋ぎを仕事の中でも行いたい。

高智穂委員(防災)

今年度はワークショップなどもあり、非常にこれまでとは違った懇話会のスタイルになって楽しみながら参加した。

LINE事業は、多言語対応ができれば外国の方に対しても熊本市の情報を発信できるのかなと感じた。

大学連携事業ということでは、大学生がサイバー対策に協力されており、フェイスブックやスマートフォンの使い方講座をするという取組みがあっていた。学生の方に協力をしてもらい、LINEの登録などを地域へ発信する方法もあるのではないかな。

ベンチについては難しいと思うが、地域で作成し、一口城主のような面白い椅子の名前を作って、協力いただける家庭の軒先に置くなど、中央区全体で広がっていくと面白いと思う。

石田委員(地域活動)

自身の校区では、学校からの協力もあり、非常に積極的に校区の活動に小学生に参加してもらっている。校区の行事・祭り・運動会など、そういう場を通して地域の活動を理解してくれていると感じている。

その他(委員振り返り)

井手委員(青少年育成)

ラインは新しい試みで、私達世代は子供ともラインで通話し、コミュニケーションツールの一つとなっている。父母は使っていない。世代間ギャップは一気に埋まらない。これまでのものを残して、新しい試みをするということはいいいことだと思う。

椅子の設置は、一歩進んだまちづくりが出来るのではないかな。

秋山委員(地域活動)

地域包括ケアシステム推進をどうやって知ってもらうかというのは、私達自治会の役目ではないかと思っている。町民のことをよく知っているのは自治会長、民生委員、指導員。一人ひとりにどうやって伝えるかをこれからも考えながら、周知徹底していきたい。

古賀会長(学識経験者)

この懇話会の特徴は、若い年齢の方、女性の委員の方が多いということ。

校区の自治会長さんが基盤づくりでしっかりと地域をまとめておられる。それに対し、若い世代、女性の人達の視点が入っている。この懇話会の構成自体が中央区全体のまちづくりをうまく進めるためのいい構成になっていると思う。

大西市長のことは、学生の90%がフルネームで書くことができる。ツイッターで若い世代に「私はこう考える」と発信されていることが理由かと考える。ツイッターというものは若い人達の、自分の意見を作るときのひとつの材料になったりするのかもしれない。

この懇話会では、委員の私たちが、小道具的なものをアイデアとして出していくことが必要なのかなと考えながら、委員のみなさんの振り返りを聞かせていただいた。